

母子相互作用

小林 登



お母さんの中には、とくに初めての出産などでは、赤ちゃんと最初に対面したとき、期待したほど可愛いと思えない場合があるかも知れませんが、それは、お母さんは、意識していないかも知れませんが、育児雑誌やミルク会社のコマーシャルのような赤ちゃんと比較しているからかと思います。もちろん、お産の直後では、顔がむくんでいたり、頭が変形したりしていることもありますから、可愛いどころではない場合も少なくないのです。

しかし、そんな場合でも心配する必要はありません。赤ちゃんを抱っこし、おんぶし、添い寝したり、あやしたり、優しく語りかけながら、母乳あるいはミルクをあげたりしていれば、自然にわが子が可愛くなっていくものです。すなわち、母親のわが子への愛情（母性愛といえるもの）は、子育ての中で自然に湧くように出てくるものなのです。同時に、あなたの赤ちゃんも、お母さんに対して愛着（アタッチメント）を形づくってくるのです。すなわち、母親のわが子に対する愛情と子の母親に対する愛着とは表裏の関係にあって、お互いに影響しあって、出来上がるものなのです。ですから、母子相互作用とよぶのです。

母子相互作用で重要なことは、スキンシップです。おんぶ・抱っこ・添い寝・母乳哺育などの、母と子の肌のふれあう機会の多い子育てが重要です。もちろん、おしめを替える、お風呂に入れるなどの生活の世話、あやしたり、遊んだりすることも、相互作用の役を果たします。あまりかた苦しく考えないで、子育てを楽しみながら実践することです。

お父さんにも相互作用があります。ですから、子育てを一緒にすることは大切です。そうすれば、父子相互作用で、子育てに熱心なお父さんになります。お父さんとお母さんは仲よく子育てを楽しんでください。

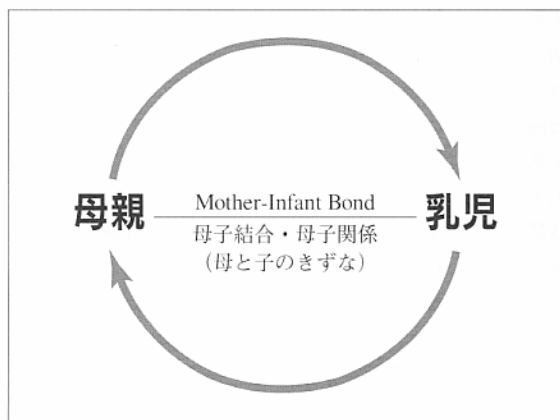


図1 母子相互作用

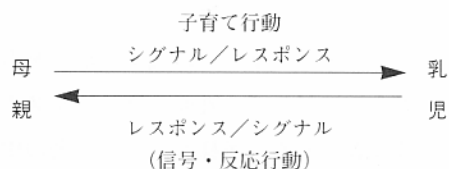
母子相互作用とは、母親の子育てにより母と子が自然にふれ合い、母親は母性愛を確立するとともに、わが子も母親に対して愛着（アタッチメント）を形成することである。母と子の心の絆をつくるそれぞれの愛情は、相互的に（インタラクションで）発達するといえる。

わが国でも問題になってきた小児虐待に関するアメリカの研究で、未熟児にそれが多発することから、この考え方が出てきた。未熟児では、分娩後に母子相互作用の機会がなく、母と子の絆の形成が破綻することが多いからである。この考えで、周産期医療のあり方が大きく変わり、分娩直後から母親にわが子を抱かせるとか、母子同室制とか、母子相互作用が可能ようになっていく。

母と子の絆は、必ずしも分娩すれば自然に形成されるものではないことが明らかになったことは重要で、わが子を可愛いと思えない母親、さらには未熟児の母親のように母と子の絆を失調しやすいハイリスクの場合には、スキンシップ豊かに母子相互作用充分させる必要がある。そのためには、母親を優しく勇気づけなければならない（エモショナル・サポート）。

母子相互作用を広くとれば、母性（あるいは母性愛）を意識する機会となる胎動から始まる。したがって、超音波画像でわが子の動く姿を、母親（さらには父親）に見せることも、母子相互作用からみて意義をもつ。

出産後の子育て行動は、「抱く」「おんぶ」「添い寝」などスキンシップ中心のもの、「あやす」「語りかける（マザーリース）」などの遊び中心のもの、さらに「哺乳（母乳／ミルク）」「入浴」「おしめかえ」など生活の世話中心のもの、のパターンに分け



母親の行動パターン	乳児の行動パターン
抱く・おんぶ・添い寝 あやす・愛撫	笑い／泣き
語りかけ（マザーリース）	体動（エントレインメント）
哺乳（母乳／ミルク）	吸 吸
en face position	eye - to - eye

（註）

- マザーリース：母親が赤ちゃん、とくにわが子に語りかけるとき、声が高くなり、抑揚が強い独特の言葉になる。母親語。
- en face position：抱っこなどで母親と乳児の顔が向き合うようになる体位。目と目があって（eye-to-eye）で感情の交流をする。
- エントレインメント：母親などの語りかけのリズムに赤ちゃんの体動、とくに手の動きのリズムが引き込まれて同調すること。

図 2

られる。しかし、そのいずれでも、感覚系を介して相互作用が行われる。新生児でも、それに応ずる感覚機能は十分に発達しているのである。

母子相互作用の中で重要なのは、触覚を介して、すなわちスキンシップによるものである。すなわち、おんぶ・抱っこ・添い寝など、さらには、敏感な母親の乳頭と乳児の口唇を介して行われる母乳哺育である。母乳哺育は、母親にとっても心地よい分泌反射という報酬がともなっている点も重要である。

行動学的に母子相互作用をみれば、母子間の信号行動（シグナル）と反応行動（レスポンス）のやりとりである。乳児が空腹で泣くというシグナルに対

して、母親は優しく抱き上げて母乳を飲ませるとい
うレスポンスをする。また、母親がわが子をあやす
というシグナルに対して、乳児は笑ってレスポンス
するなどは代表である。多様な子育て行動の中には、
いろいろなシグナル／レスポンスのやりとりがみら
れる。

分娩までは、母と子は胎盤系・臍帯によって結ば
れ、ひとつの人間システム（母子結合）として生存
していたが、分娩後は母子相互作用により情動的さ
らに情緒的に結合して、生活力の未発達な乳児は、

母親のサポートにより生存し、育っていかねばなら
ない。

重要なことは、父と子の絆の形成にも、母子相互
作用と同じメカニズムが、相当程度関係すること
である。したがって、立ち会い分娩、さらに早期から
の子育て参加により、父子のふれあう、父子相互作
用の機会を多くすれば、母親と同じように子育てに
のめり込むように（エンゲロスメント）なり、協力的
な父親になるのである。